# うらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより10月号
令和5年9月22日発行

## 子どもたちが、自ら考え、自ら決めていくことを大切に

校長　原　浩一郎

８月２５日（金）・２６日（土）に、広島県において「日本ＰＴＡ全国研究大会・日本ＰＴＡ中国ブロック研究大会」が、全国から多くの方の参加のもと盛大に開催され、私も参加してきました。

２日間とも有意義な内容だったのですが、ここでは、２６日（土）に行われた黒川 伊保子氏による講演の内容について記します。

黒川氏は、人工知能研究者、感性アナリスト、随筆家で、主な著書に「妻のトリセツ」「家族のトリセツ」等があり、ご存知の方も多くおられるのではないでしょうか。

講演では、新しい時代を生きる子どもたちの育成のヒントになるお話を聴くことができました。その中で、特に、元バレーボール日本代表の益子直美さんが、「監督が怒ってはいけない大会」を各地で開催していることと脳神経回路との関係についてのお話に興味をもちました。

黒川氏 によると、大人が怒って子どもと関わり、結果や責任で追い詰めると子どもは、「余計なことを考えず、がむしゃらに突き進む脳神経回路」が活性化するそうです。一方で、「発想力、対話力、長期の戦略力」の脳神経回路を阻害するとのことです。過去においては、激しい叱責等による指導でもよかったかもしれないが、これからの時代ではそうはいかない、というお話をされました。

令和５年６月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、そのコンセプトとして、持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む）の向上」が掲げられています。これらの実現のためには、「発想力、対話力、長期の戦略力」が不可欠のような気がします。

黒川氏のこのお話から、子どもたちが、自ら考え、自ら決めていくことを大切にする必要があると改めて思いました。

そのためには、子どもにチャレンジさせることが求められると考えます。先日読んだ本に、「子どもを信じ、自分が考えて決めさせる。決めたことが間違っていることに気付いたら、軌道修正すればよい。」というような内容が書いてありました。

まずは、大人が思い切って子どもを信頼して任せることを大切にしたいものです。